

3論文に同一写真？

東北大・井上前総長96、97、99年発表

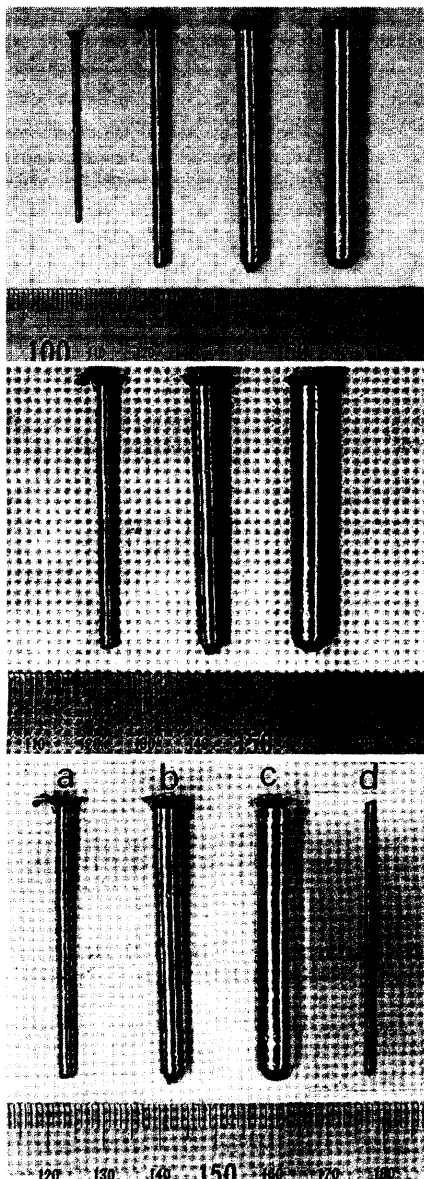
教授告発 近く調査委設置

東北大の井上明久前総長の研究グループが、1996年発表の論文に掲載した合金の試料写真を97、99年の論文に使用していた疑いがあることが21日、分かった。97、99年は別回していた疑いがあることが21日、分かった。97、99年は別

論文はいずれも、日本金属学会の欧文誌で発表された。99年の論文は2000年の日本金属学会論文賞(物性部門)を受賞した。

大村氏によると、96年はネオジウムが主体のバルクアモルファス合金の磁気的性質、97、99年はジルコニウムの組成が最も多い同合金の強度など機械的性質がテーマ。

それぞれに添付された写真を比較した結果、96は形状や汚れ、あるいは下部の物差しとの位置関係が酷似し、同じ試料と大村氏が井上氏の論文



井上氏が(上から)1996年、97年、99年の研究論文にそれぞれ掲載した試料写真。試料の形状や汚れ、物差しとの位置関係が酷似している

をさかのぼって調べ、不自然さに気付いた。大村氏は「96年の写真は3本の左側に別の試料を並べているが、並べていない写真も同時に撮影し、97年論文に使用した可能性がある」と指摘する。99年の写真の左3本も同じ試料と見られるという。こちらは右側に別の試料の写真を切り張りした形跡を確認できた。井上氏の論文をめぐる問題は発覚した。井上氏は任期満了で昨年3月末に総長を退任、現在は総長特別顧問に就いている。河北新報社の取材に

対し、井上氏は東北大広報課を通じて「告発の内容は知らないが、大学がルールに基づいて適正に対応してくれると信じている」とコメントした。東北大は既に調査委員会の人選を済ませた。本年度内にも正式に発足させる見通しで、伊藤貞嘉理事(研究・環境安全担当)は「第三者の立場で公平かつ厳正に調査してもらい、大学として社会的責任を果たしたい」と話している。